

歯列矯正治療（矯正歯科治療）でのリスクや副効果（副作用）について

歯列不正、あるいは不正咬合の改善を目的とした歯列矯正治療（矯正歯科治療）には、以下に挙げられるような、リスクや副効果が生じる可能性がゼロではないことと、事前に予測することが不可能な場合もありますので、あらかじめ知っておいて頂く必要があります。しかしながら当院のマウスピース矯正におきましては、たとえ下記のような副効果が生じたとしても、そのほとんどは患者様ご自身の日常生活に重大な支障を来すものではありませんので、ご安心下さい。

A. 矯正治療の一般的なリスクや副効果に関して

- ①頻度的には多くありませんが、矯正装置の装着後及び着脱動作中、歯肉、舌、頬及び唇に、一過性の擦り傷又は痛みが生じる場合があります。
- ②矯正治療開始直後及び途中で、歯の圧迫感、ないしは圧痛を経験する場合があります。
- ③矯正装置の装着により、一定期間、患者様の発音、発語に影響を与える場合があります。
- ④矯正装置の使用により、一定期間、唾液分泌の増加、もしくは口の渇きを経験する場合があります。
- ⑤治療過程のいずれかにおいて、咬合状態（上下の歯と歯のかみ合わせ）が変化し、患者様によっては一定期間、違和感ないしは不快感を感じる場合があります。
- ⑥治療中、歯の変色及び着色が生じる可能性があります。
- ⑦矯正装置の装着が、歯、歯槽骨又は歯肉及び歯髄の健康状態に何らかの影響を与える可能性がゼロではありません。
- ⑧人体は生涯変化することが前提となります。矯正装置を使用した治療が完了した後も、歯の位置が移動する場合があります。
- ⑨口腔内の状況によっては、治療期間中、むし歯や歯周病への対策が必要になる場合があります。
- ⑩矯正治療を中断した場合でも、治療前の状態に戻すことはできません。

B. 矯正治療と併用する、もしくはその可能性のある治療方法に関して

- ①稀に、重度の叢生若しくは顎不均衡の改善、将来的に起こりうる口腔内の変化を減少させる等の理由で、粘膜や骨格および歯に対する何らかの口腔外科手術が必要となる場合があります。
- ②矯正治療の過程において、歯の移動効果の容易化、歯の連続性の維持、又は、その他の治療効果の発揮のために、一定期間、全部又は一部の歯に矯正治療用補助装置（アタッチメント等）を接着する可能性がゼロではありません。
- ③矯正治療の過程において、歯の移動のためのすき間を作る（空隙創出）ため、歯の抜歯（特にいわゆる「親知らず」、歯列から極端に外れて生えている歯、過剰歯や顎骨の深い位

置に埋まっている埋伏歯など）や切削（ディスクング）が必要となる場合、又は望ましい場合があります。

④矯正治療において、歯の形態修正が必要となる場合、又は望ましい場合があります。

⑤歯の移動により咬合の変化が生じ、顎の関節に対する保護や治療が必要となる場合、又は望ましい場合があります。

⑥治療計画の変更や中断を抑制するために、矯正治療のどこかの段階で、う蝕や歯周病に対する治療が必要となる場合、又は望ましい場合があります。

⑦上記の矯正以外の治療を行うため、治療計画の休止や一時的な中断が必要となる場合、又は望ましい場合があります。

C. 患者様の素因又は治療歴に由来する事柄に関して

①患者様に、特殊な形状の歯、あるいは何らかの奇形や形態異常を有する歯が存在する場合、治療期間が長期化したり、あるいは治療結果に悪影響を与える場合があります。

②重度の叢生がある場合、又は欠損歯が複数存在する場合、予想外に治療が長期化したり、あるいは装着した製品等の破損が生じる可能性があります。

③重度の開咬、過蓋咬合、混合歯列、およびそれらを含む骨格性の不正咬合の治療は、複数の治療法を併用する場合があります。

④稀に、重度の叢生があるケースについては、矯正装置の着脱が困難になることがあるため、スムーズに着脱できるようになるのに期間を要する場合があります、その結果予定よりも頻回に通院していただく場合もあります。

⑤過去の歯の疾患の治療により歯の修復、もしくは補綴処置を受けた歯に関しては、症状が再発したり、あるいは悪化する場合があります。その結果、再治療や追加治療、対象部位の周辺を含む範囲へ、過去の方法とは異なる治療が必要となる可能性があります。

⑥歯冠が短い、あるいは高さが極端に低い場合は、歯の移動に制約が出る場合があります。

⑦歯肉の状況によっては歯肉の位置が変わる事があり、それが事前に予測できない場合もあります。

⑧患者様の既存の補綴修復につきましては、矯正治療のどこかの段階で、再装着又は交換（やり替え）が必要になる場合があります。

⑨極めて稀ですが、患者様の体質に対する矯正治療装置の素材によるアレルギー反応が生じる可能性がゼロではありません。

⑩前各号のほか、患者様の身体・健康状態、及び医薬品の服用によって、治療効果に何らかの影響を与える可能性がゼロではありません。

D. 矯正治療計画および装置装着・使用方法に関して

①患者様が、治療計画に関して主治医の指示に従わない場合、又は、その他治療を担当する歯科医師が指示する使用方法やその他の指示に従わない場合、治療期間の著しい長期化、

又は治療結果に何らかの悪影響を与える可能性があります。

②装着する本製品等又はその一部を、患者様が誤飲又は吸引してしまう可能性がゼロではありません。

③矯正治療においては、歯の移動速度および移動範囲に限界がある可能性があり、事前に予測することが困難な場合もあります。

④適正な着脱方法、あるいは適切な装置の管理を行わなかった場合、矯正装置が破損変形し、再製作が必要となる可能性があります。

⑤患者様が、計画的に通院しない場合や計画外の事が生じた事の連絡を怠った場合、治療期間の著しい長期化、又は治療結果に何らかの悪影響を与える場合があります。

⑥患者様が、計画外の事態が生じたにもかかわらず、担当歯科医師への連絡を行わない場合、身体的かつ精神的、時間的かつ経済的な負担が増大する可能性があります。